

2018 WHO'S NEXT?

1998 80 横濱(神奈川) 松本大輔 「平足の怪物」、決勝をノーヒットノーランで締めくく、春夏連続	1997 79 平塚(京都) 山口知哉 4連投の決勝で力きたが、全6試合完投。【目標は完全試合】とも語った	1996 78 東京(福岡) 三井由佳子 記録簿のペンチ入りで認められ、女子マネジャーで初めて甲子園の土を踏んだ	1995 77 香取(福井) 内藤剛志 3回戦で15回を1失点で投げ抜く。続く準々決勝でも投げ勝ち、4強進出	1994 76 佐賀(佐賀) 西原正樹 決勝の9回から満塁本塁打で決勝点を奪い、初の全国制覇	1993 75 春日部(埼玉) 土肥龍弘 2年生のエース左腕。決勝は1点差で返すのみ、準優勝	1992 74 星城(石川) 松井秀喜 屈指の強打者として注目された。四連勝の2回戦では5打席連続安打された	1991 73 市川(山梨) 樋浦卓哉 「ミラクル市川」のエース。4人入りの春の戦いのままに夏の8人入り	1990 72 沖繩(沖縄) 萩原隆夫 夏の初優勝。18年ぶりに夏の甲子園で優勝した	1989 71 秋田(秋田) 中川幸也 2試合を含む3試合連続安打の1年生左腕。4人入りの原動力に	1988 70 江の川(福岡) 谷繁元基 高校大会5試合全てで本塁打を放ち、本大会では開幕42年ぶりの8強進出	2009 91 日本文理(新潟) 伊藤直樹 準優勝のエース。決勝の9回から5点を奪って1点差に迫る活躍を見せる	2008 90 大宮(埼玉) 西谷浩一監督 決勝を17点差で圧勝。100回大会は歴代最多の春夏連続7度目の優勝を飾る	2007 89 佐賀(佐賀) 野村浩之 決勝の8回、3点を奪う活躍で満塁本塁打。【がばい投法】を起した	2006 88 早稲田(東京) 西園祐輔 駒大(小笠原)北海道に引継ぎ、準決勝で中野大と投げ合い、再試合を制した	2005 87 大宮(埼玉) 平田真介 4人入りの強力打線を引き継ぎ、準決勝では史上2人目の1試合3本塁打	2004 86 駒大(小笠原) 佐々木孝介 主将としてチームを引っ張り、北海道初優勝。決勝では史上初の3投手を起した	2003 85 東北(宮城) ダルビッシュ有 2年生エースで躍進。自身から速球と多彩な変化球を駆使し、準優勝	2002 84 明徳義塾(高知) 高橋史郎監督 この10年前は5打席連続安打を指し示す批判を受けたが、最終の初優勝	2001 83 近江(滋賀) 小森博之 準優勝の主将で投手。【3本の矢】と呼ばれるタイプの真夏の3投手を起した	2000 82 智弁和歌山 高橋仁監督 6試合で計100打の最多記録で2度目の優勝。歴代最多の春夏連続68勝	1999 81 桐生第一(群馬) 正田剛 制球よく投げ込み、3試合を挙げ、夏の甲子園の全国制覇
---	---	--	--	--	--	--	--	--	---	---	---	--	---	--	---	--	--	---	---	--	---

輝き続ける夏の主役

第100回 全国高校野球選手権記念大会

ホームランスタンドを沸かせる強打者、いくつもの三振を奪う好投手。夏が来れば思い出、大会を彩ったヒーローたち。記録や歴史をつけた監督やマネージャーも話題になりました。球場で輝きを見た「あの夏の顔」を振り返ります。

1976 58 海星(長崎) 酒井金一 長崎大会で16連続安打。全国大会でも春夏連続で完封勝利4人入りした	1975 57 習志野(千葉) 小川洋司 エースで優勝。3回戦から準決勝まで3連続完封するなど活躍した	1974 56 鹿児島実業(鹿児島) 定岡正二 夏の決勝で延長15回を制して4強。原簿簿のいた東海大相模(神奈川)を破る	1973 55 作新学院(栃木) 江川隆 準決勝で「元程・怪物」の2回戦から延長12回まで投げ出し、サヨナラ負け	1972 54 津久見(大分) 水江正樹 高橋唯一の全国制覇。決勝は10安打を奪ったが、夏を輝かすに貢献	1971 53 豊後(福岡) 田村隆寿 準決勝で完封を続けたが、決勝の1失点で大逆転の白河経典(神奈川)に敗れた	1970 52 東海大相模(神奈川) 原簿簿 47回大会の三治工での初出場優勝に続き、史上初の異なる高校での全国制覇	1969 51 三浦(青森) 太田幸司 決勝で井上明(松山)と延長十八回まで互いに無失点。史上初の決勝再試合に	1968 50 興国(大阪) 丸山明 技巧派下投げで新進投手(新田)と投げ合い、初出場優勝	1967 49 習志野(千葉) 石井好博 無失点の試合運びで全国制覇。準決勝は4回、連打(けんせい)で逆者を制した	1966 48 郡山(奈良) 森本達彦監督 公立進学の母校で甲子園大会で2009年まで47年監督を続けた	1965 47 三池工(福岡) 上田卓三 初出場優勝のエース。準決勝では1失点の町の希望に、工業校初の全国制覇	1964 46 岩崎(高松) 水谷英雄 エースで4強で4強入り。準決勝では1失点に泣き、優勝する高知に惜敗	1963 45 下関南(山口) 池永正明 山口大会で完全試合を奪った5試合を完封し、春夏連続に挑んだが決勝で惜敗	1962 44 沖繩(沖縄) 安仁屋宗八 興国で初めて九州大会を勝ち取ったエース。1回戦で広島(広島)に惜敗	1961 43 清原(大阪) 尾崎行雄 春夏連続で快投。準決勝で3連続安打に挑んだが法政二を破って全国制覇						
1960 42 法政三(神奈川) 藤田勲 当時「史上最強」と呼ばれたチームで決勝に登場し完封。打った打率5割	1959 41 西条(愛媛) 金子野夫 小柄ながら「目をつぶって」もストライクが入る。【自信】の精神力で全国制覇	1958 40 鳥津(富山) 村柳輝雄 8強進出の「闘雲」格闘(山崎)と投げ合い、延長18回を投げ合う	1957 39 早稲田(東京) 王貞治 2回戦で史上唯一の延長11回のノーヒットノーランを達成	1956 38 米子東(鳥取) 長島康夫 19歳のエース。戦争の影響で入学が2年遅れ、特例で出場した。4人入り	1955 37 四日市(三重) 高橋正樹 初出場初優勝。カーブを武器に「番狂わせ」と言われた快進撃	1954 36 新宮(和歌山) 前田勲也 3回戦で延長17回を奪った。準決勝は中京(愛知)のバント攻めに敗れた	1953 35 松山南(愛媛) 空谷孝 準決勝まで3試合連続完封。決勝は延長13回の熱戦を制し全国制覇	1952 34 八尾(大阪) 木村保 大会大会から準決勝まで10試合連続完封で勝ち上がるが、決勝で惜敗	1951 33 高松一(香川) 中西太 ランニング本塁打を2本放つなど4人入り。「怪馬」と呼ばれた	1950 32 門門(徳島) 岡本善雄 初出場で準優勝した主将。5試合64安打の「うしろお打線」で快進撃	1949 31 豊島(岡山) 香次新六 大会通算3本塁打。85年まで破れない大会記録だった	1948 30 小倉(福岡) 福島一雄 学制改革で高校の大会に。鳴滝一(海草)に並ぶ5試合連続完封で優勝	1947 29 小倉中(福岡) 宮崎隆之 7年ぶりの甲子園開催で優勝した主将。九州制で初めて大優勝旗を持ち帰る	1946 28 津南(大阪) 平古雄二 西宮球場で再開した大会で。鳴滝一(海草)に並ぶ5試合連続完封で優勝	1941 27 地方大会中に中止に	1940 26 海草中(和歌山) 真田隆雄 三塁手から投手に転じた。鳴滝一(海草)に並ぶ5試合連続完封で優勝	1939 25 海草中(和歌山) 鳴滝一 全5試合完封で全国制覇。準決勝と決勝はノーヒットノーランも達成した	1938 24 平安中(京都) 保井浩一 決勝の9回1死二、三塁で、前走守備の二塁手後方に落ちるサヨナラ安打	1937 23 熊本工 川上哲治 決勝で2度の野盗に泣いて準優勝。プロでは打者に転向し、「打撃の神様」	1936 22 岐阜南 松井受道 大きな背のカーブで「三凡(約90%)」の真名をとる。春夏3度の優勝	1935 21 嘉義農林(台湾) 呉俊 台湾代表として出場し、準決勝でプレーして有名に。プロ野球でも活躍
1934 20 興中(広島) 藤村富雄男 エースで主将で全国制覇。決勝では川上哲治(熊本)から3打席3本塁打	1933 19 明石中(兵庫) 中田武雄 準決勝で吉田正男(中央)と投げ合い、延長二十五回の1失点で返すのみ	1932 18 明石中(兵庫) 藤本保 4強進出の期間。戦時最多の大会通算64奪三振を記録	1931 17 中京南(愛知) 吉田正男 初出場初優勝。この年から史上唯一の3回戦で成し遂げるエース	1930 16 広島南 灰山元治 エースで4強で夏連覇。翌年の準決勝も優勝し、史上初の春夏連続も達成	1929 15 豊中(東京) 嶋崎敦夫 大会初とされる選手宣言。「闘雲の通り」エース堂々と「かひます」	1928 14 松本南(長野) 中島清三 シュートなどで高角を突く投法で全国制覇。後にプロ野球史上初の三冠王に	1927 13 福岡中(香手) 村田幸三 3回戦で九回1死三塁から日本野球史上初の三冠王に	1926 12 静岡中 上野清三 3回戦では延長19回を投げ抜く。準決勝は1失点で迎えて初優勝	1925 11 高松南(香川) 宮武三郎 選手から投げ込み、野球で全国制覇し、四回に初の優勝旗をもたらした	1924 10 静岡中 田中幸太郎 開幕戦で甲子園球場1号本塁打。大会史上初の満塁本塁打だった	1923 9 甲陽中(兵庫) 岡田寛一 2回戦の9回に逆転3ラン。強打と好配球で初出場優勝を果たした	1922 9 和歌山中 井口新次郎 前年は大会最多の16得点を記録し、今大会は主将で4強でエース。初の連覇	1921 7 和歌山中 北島好次 強力打線の4強に。準決勝、チームの4試合75得点は今も大会記録	1920 6 関西学院中(兵庫) 沢野 助藤(くま)と並ぶに。340度強い熱を押し、決勝で投手になるが、早世する	1918 4 米騒動で中止に	1917 3 愛知一 長谷川武治 優勝を勝ち取った主将。初戦で一度敗れたが、当時あった敗者復活戦で勝利	1916 2 慶応普通(東京) ジョン・ダン 米国人で、大会初の外国人選手。2打者の一塁手として出場し、優勝に貢献	1915 1 鳥取中 藤田一郎 開幕試合の一回表に登場し、100回へと進める歴史が始まった			

THE STORY BEGINS.

輝続ける夏の主役

第100回 全国高校野球選手権記念大会

ホームランでスタンドを沸かせる強打者、いくつもの三振を奪う好投手。夏が来れば思い出す、大会を彩ったヒーローたち。

記録や歴史をつくった監督やマネージャーらも話題になりました。球場で輝きを見せた「あの夏の顔」を振り返ります。

1971
53

1970
52

1969
51

磐城(福島)
田村隆寿

東海大相模(神奈川)
原貞監督

三沢(青森)
太田幸司

準決勝まで完封を続けたが、決勝の1失点で大優勝旗の白河越えに届かず

47回大会の三池工での初出場優勝に続き、史上初の異なる高校での全国制覇

決勝で井上明(松山商)と延長十八回まで互いに無失点。史上初の決勝再試合に

1968
50

興国(大阪)
丸山朗

技巧派下手投げで新浦寿夫(静岡商)との投げ合いを制し、初出場優勝

1955
37

1954
36

1953
35

四日市(三重)
高橋正勝

新宮(和歌山)
前岡勤也

松山商(愛媛)
空谷泰

初出場初優勝。カーブを武器に、「番狂わせ」と言われた快進撃

3回戦で延長17回を完封。準決勝は中京商(愛知)のバント攻撃に敗れる

準決勝まで3試合連続完封。決勝は延長13回の熱戦を制し全国制覇

1952
34

1951
33

1950
32

八尾(大阪)
木村保

高松一(香川)
中西太

鳴門(徳島)
岡本善雄

大阪大会から準決勝まで10試合連続完封で勝ち上がるが、決勝で惜敗

ランニング本塁打を2本放つなど4強入り。「怪童」と呼ばれた

初出場で準優勝した主将。5試合64安打の「うずしお打線」で快進撃

1949
31

1948
30

1947
29

倉敷工(岡山)
藤沢新六

小倉(福岡)
福島一雄

小倉中(福岡)
宮崎康之

大会通算3本塁打。85年まで破られない大会記録だった

学制改革で高校の大会に。嶋清一(海草中)に並ぶ5試合連続完封で連覇

7年ぶりの甲子園開催で優勝した主将。九州勢で初めて大優勝旗を持ち帰る

1946
28

浪華商(大阪)
平古場昭二

西宮球場で再開した大会で優勝。準決勝で19奪三振。決勝も13奪三振で完封

1929
15

1928
14

1927
13

慶応商工(東京)
黒崎数馬

松本商(長野)
中島治康

福岡中(岩手)
村田栄三

大会初とされる選手宣誓。「訓辞の通り正々堂々とたかひます」

シュートなどで両角を突く投球で全国制覇。後にプロ野球史上初の三冠王に

3回戦で九回1死三塁から日本野球史上初とされる満塁策を試み、成功させた

1926
12

1925
11

1924
10

静岡中
上野清三

高松商(香川)
宮武三郎

静岡中
田中市太郎

3回戦では延長19回を投げ抜く。準決勝、決勝は1失点で抑えて初優勝

横手から投げ込む剛球で全国制覇し、四国に初の優勝旗をもたらした

開幕戦で甲子園球場第1号本塁打。大会史上初の満塁本塁打だった

1923
9

1922
8

1921
7

甲陽中(兵庫)
岡田貴一

和歌山中
井口新次郎

和歌山中
北島好次

2回戦の九回に逆転3ラン。強打と好配球で初出場優勝を果たした

前年は大会最多の16得点を記録し、今大会は主将で4番でエース。初の連覇

強力打線の4番に座り、初優勝。チームの4試合75得点は今も大会記録

1920
6

関西学院中(兵庫)
沢昇

肋膜炎(ろくまく)炎による40度近い高熱を押して登板。優勝投手になるが、早世する